



MOJI GAKUEN

Junior & Senior High School



福岡県立門司学園 中学校・高等学校
創立20周年記念誌

MOJIGAKUEN

福岡県立門司学園中学校 高等学校



創立20周年記念誌

20TH ANNIVERSARY

校章



校章のデザインは、古来港湾都市として栄えてきた門司を象徴する「錨」と「水」をモチーフとしたものです。

本校は門司に開校する中高一貫教育校として、旧門司市の紋章（「錨」と水 を意味する「巴」（向かい巴）で描かれている）を参考にしました。

更に、「向かい巴」は「門」をアレンジしたものであり、「錨」は、校訓である「自立・勉学・創造」を意味し、本校で学んだ生徒たちが力強く世界へ羽ばたき活躍する姿を表現しました。

校旗



校訓

校訓
自立 勉学 創造

校歌・応援歌

福岡県立門司学園 校歌

坂口 秀俊 作詞
畑中 良輔 作曲

- 一、今明け初むる門司港
戸上風師の嶺仰ぎ
自立の心たくましく
ここに建ちたる我が母校
明るく集う学舎に
若人の胸高鳴りぬ
- 二、周防の海はおたやかに
満珠干珠をながめつつ
真理を究め道拓く
朝日の騰がる我が母校
心も身をも磨くべく
若人の目はかがやきぬ
- 三、硯の海はにぎわいて
早鞆の瀬も激ざりたち
精気に満ちて創造の
誇りぞ高き我が母校
湧き出る希望かぎりなく
若人の夢はてもなし

福岡県立門司高等学校 第二校歌

北原 白秋 作詞
山田 耕筈 作曲

- 一、天あり、いざ呼べ、躍進門高
風師の翠巒、我等に薫らん
見よ、この関頭、信じて俟つべし
九州こゝより朝日の騰るを
(門高、門高、門高フレール
門高、門高、門高フレール)
- 二、瀬戸あり、いざ乗れ、躍進門高
急なり早鞆、潮と競わん
聴け、かの底流、臨みて識るべし
真の力は久遠に響くを
(くりかえし)
- 三 膽あり、いざ起て、躍進門高
玄海遙かに怒濤を凌がん
剛健、亦よく社会に生きむに
日頃の誓願断じて破らじ
(くりかえし)

福岡県立門司北高等学校 応援歌

高橋 久俊(北高三期) 作詞
竹下(山形) 恭子(北高四期) 作曲

- 流れは速き早鞆の
沸き立ち返へる渦潮の
強き大志を胸に秘し
若き血汐は燃ゆるなり
我等が意氣とその腕を
示さん時は今なるぞ
- 松も緑の山を負ひ
雲は去り行く黎明に
光に大氣澄む所
谷間に強くこだまして
理想は華と咲き薫り
送り迎へん三つの年
- 風塵暗く天を覆ひ
緑林嵐に哮るとも
底に雄々しく蓄へて
鍛へし技は我にあり
堂々旭日の昇ること
母校の響いやあげん





20th Anniversary

行事風景



部活動風景



20th Anniversary

歴代校長



初代校長
平成15. 4～
坂口 秀俊



第2代校長
平成23. 4～
固谷 寛



第3代校長
平成27. 4～
田中 浩子



第4代校長
平成28. 4～
平井 秀典



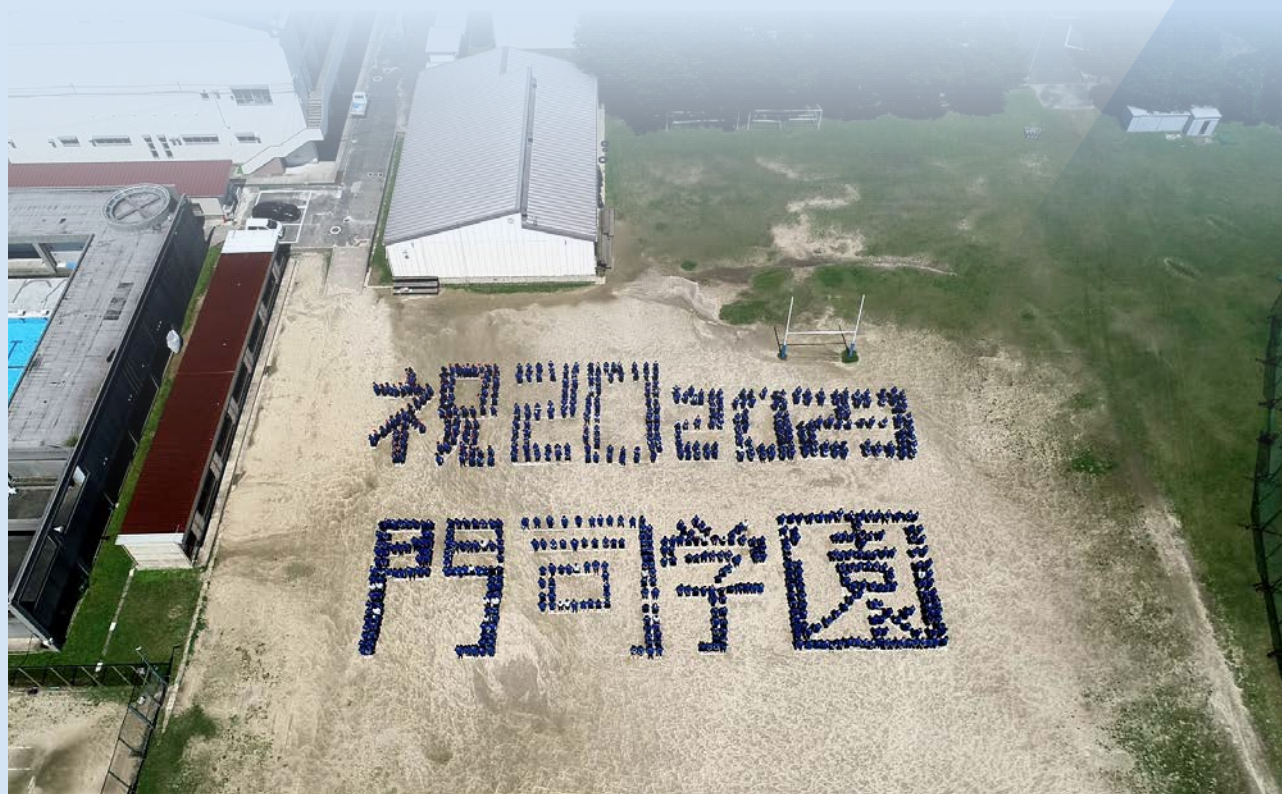
第5代校長
平成31. 4～
井上 英彦



第6代校長
令和3. 4～
青木 喜人



第7代校長
令和5. 4～
中島 一生





Contents

| | |
|----------|---|
| 校章・校旗・校訓 | 2 |
| 校歌・応援歌 | 3 |
| 行事風景 | 6 |
| 部活動風景 | 7 |
| 歴代校長 | 8 |

巻頭言

| | |
|----------|----|
| 校長 中島 一生 | 10 |
|----------|----|

記念事業

| | |
|----------------------------------|----|
| 記念式典 | 11 |
| 生徒発表 | 11 |
| 挨拶・祝辞 | |
| 校長 中島 一生 | 12 |
| 福岡県教育委員会 松永 一雄 | 14 |
| 創立20周年記念事業 実行委員長 (同窓会長) 財前 裕一 | 15 |
| PTA 会長 山下 和茂 | 16 |
| 福岡県公立高等学校長協会 北九州地区会長 谷川 陽一 | 17 |
| 生徒会長 松本 育珠 | 18 |
| 記念体育祭 | 19 |
| 記念芸術鑑賞会 | 20 |
| 記念学園祭 | 21 |
| 記念講演 | 22 |

20年のあゆみ

| | |
|----------|----|
| 創立-10周年 | 24 |
| 11年-20周年 | 28 |

現況

| | |
|----------|----|
| 年間行事 | 44 |
| 門司学プラン | 46 |
| 進路 | 47 |
| 部活動 (中学) | 48 |
| 部活動 (高校) | 51 |
| 生徒会活動 | 57 |

寄稿文

| | |
|--|----|
| | 58 |
|--|----|

同窓会

| | |
|--|----|
| | 64 |
|--|----|

資料

| | |
|--------------|----|
| 旧職員一覧 | 65 |
| 現職員一覧 | 67 |
| 制服の変遷 | 68 |
| 学校刊行物 [学校案内] | 69 |

編集後記

| | |
|--|----|
| | 70 |
|--|----|

卷頭言



創立20周年を迎えて

校長

中島 一生

本校は、平成11年7月に出された「福岡県県立学校教育振興計画審議会答申 社会の変化に対応した県立高等学校教育の総合的な振興方策について」を受け、門司北高等学校と門司高等学校を再編・統合するという形で県下初の中高一貫教育校として平成16年に開校しました。以来、「中学校と高等学校を一貫して生まれる様々な『ゆとり』を活用して、じっくりと学ぶことができるようにすることにより、生徒の課題解決能力を育成するとともに、個性や創造性を伸ばし、豊かな人間性を育成する」という設置理念の基、「自立・勉学・創造」という校訓を定め、「文武両道・質実剛健」を校是に教育活動を展開してまいりました。そしてここにめでたく創立20周年を迎え、記念事業の1つとして「創立20周年記念誌」を発行できますことは、本校の歴史を顧み今後の飛躍を展望する上で、大変意義深いことであり、喜びに堪えません。これもひとえに、今日に至るまで門司学園を愛し続け、学校の発展に精魂を傾けられた歴代校長先生をはじめとする職

員、本校同窓会「翠巒会」、門司北高等学校同窓会「門浪会」、門司高等学校同窓会「硯友会」及び保護者等の皆様、そして地域の皆様方のおかげであり、衷心より感謝申し上げます。

顧みますと、平成24年に現在の猿喰に中高の校地が統合されてからの11年間、及び創立20周年に至るまでの10年間は、本校にとって苦悩の連続でありました。特に校地の地理的条件の悪さ等による生徒募集の不調は本校の大きな課題でした。これらを克服するために、生徒・職員が一丸となり魅力的な学校の創造を目指し邁進してきました。中でも、わかる・おもしろい・味のある授業の実践、生徒主体の学校行事の運営、部活動の活性化及び実績の向上、生徒の志望をかなえる進路指導、本校の魅力積極的に発信する広報活動等については、一定の実績を上げているのではないかと自負しております。また、通学の利便性の確保のため、保護者や地域の皆様、貸切バス（スクールバス）業者、公共交通機関等に多大な御協力と御支援をいただきました。

しかしながら、令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症の大流行による混乱が追い打ちをかけ、現在一層窮地に立たされている状況です。今後、まずは目の前にいる生徒を大切にするとともに、創立30周年に向けてより一層創意工夫を凝らし、情熱を傾けるとともに関係各位と協力して、本校を守り、発展させていきたいと思っています。

おわりにあたり、同窓生の皆様をはじめ、本校に関わる全ての皆様には、本校創立20周年に対し、物心両面にわたり、多大な御協力を賜り、深く御礼を申し上げます。また、当記念誌編纂に対しまして、玉稿並びに貴重な資料をお寄せいただいた皆様、多大なる尽力をいただいた本校職員の皆さんに心から感謝の意を表する次第であります。本記念誌が、これまでの20年間の充実した教育活動の証となり、今後の本校に道標になりますことを祈念するとともに、今後とも本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援をお願いしまして、巻頭のことばといたします。

記念事業

記念式典

創立20周年記念式典の会場については、実施日及び当日の来賓及び生徒を含む来場者のことを第一に考え、創立20周年記念事業推進会議で検討を重ねた結果、北九州芸術劇場で実施することが決まった。学校外での記念式典の実施は類を見ないものであり、多くの方々の注目を浴びた。とても厳かな雰囲気の中で挙行され、生徒も緊張感をもって輝かしい節目の行事に臨むことができた。校歌を高らかに歌う様子は、創立20周年を祝うにふさわしい大変誇らしいものであった。



生徒発表



吹奏楽部



英語スピーチ



高校2年生探究学習発表



式辞

校長

中島 一生



金風さわやかな空のもと、菊花薫る今日の佳き日、県教育委員会松永一雄様をはじめ、多くの御来賓の方々の御臨席と関係各位の御列席を賜り、かくも盛大に創立20周年記念式典を挙げてまいりますことは、私たち門司学園職員並びに生徒にとりましてこの上ない喜びであります。高いところから大変失礼ではございますが、厚く御礼を申し上げます。

さて、本校は、平成11年7月に出された「福岡県立学校教育振興計画審議会答申 社会の変化に対応した県立高等学校教育の総合的な振興方策について」を受け、

門司北高等学校と門司高等学校を再編・統合するという形で県下初の中高一貫教育校として平成16年に開校しました。以来、「中学校と高等学校を一貫して生まれる様々な『ゆとり』を活用して、じっくりと学ぶことができるようにすることにより、生徒の課題解決能力を育成するとともに、個性や創造性を伸長し、豊かな人間性を育成する」という設置理念の基、「自立・勉学・創造」という校訓を定め、「文武両道・質実剛健」を校是に教育活動を展開し、本年度で創立20周年を迎えるに至りました。

開校以来、向学の意気に燃え、本校に集い学んだ卒業生は、14期生までの約2,200名と、まだまだ学校として歴史は浅くはありますが、勉学・部活動両面において一定の成果を上げ、限りなく湧き出る希望を抱き、それを実現できる学校へと着実に進化しております。

これも、草創期から本校の輝かしい未来を固く信じ、その基礎づくりに向け懸命に尽力された坂口秀俊初代校長先生や、平成24年に中高の校地を統合し、真の意味

での中高一貫教育校としての進展に尽力された固谷寛第2代校長先生をはじめ、諸先生方並びに卒業生諸氏及びPTA各位のお陰であるとともに、その意志や精神をしっかりと受け継ぎ、校風の更なる発揚に向け、在校生諸君が日々真摯に努力している賜物でもあります。私は、このような素晴らしい学校の校長であることに大きな誇りを感じるとともに大変光栄に思っております。

本日の創立20周年記念式典に当たり、生徒諸君に伝えたいことがあります。

それは、今後の人生を主体的に歩んでいってほしい。主体的に未来を切り拓く人材に成長してほしいということです。

本校の国旗掲揚台のある前庭にひっそりとたたずむ石碑があるのを皆さんは知っていますか。そこには、そつたくどうき「啐啄同機」という文字が刻まれています。これは、中国宋時代の禅宗の書である「碧巖録」にある言葉で、卵から鳥の雛が誕生するときの、雛と親鳥の営みを表したものです。

雛が卵からかえるとき、雛は卵の内側から一生懸命に殻をつつき破ろうと



します。しかし、雛の力だけではなかなか殻を破ることはできません。親鳥は、雛の殻をつつく音を聞いてから同じ場所をつついてひびを入れてやります。雛が外に出たいとつつかなければ、親鳥は殻にひびを入れず、ひびを入れるのが遅れることで健全な雛は生まれません。また、親鳥が雛のことを思いすぎ、ひびを入れすぎると逆に弱い雛にしかならないそうです。雛と親鳥の絶妙な共同作業によって生命が誕生するという事です。この「^{そつたくどうき}啐啄同機」と言う言葉は、教育の真髓を表しており、先生と生徒、親と子のあるべき基本姿勢を示唆しているものです。しかし、生徒諸君に考えてもらいたいのは、殻を破り新たな世界へと羽ばたきたいという雛の力強い「つつき」です。この力強い「つつき」がなければすべてが始まりません。

まさに現在、日本そして世界を取り巻く環境は大きな変化を遂げ、Society5.0の到来が叫ばれています。Society5.0では、IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった先端技術をあらゆる

産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していくことが求められています。生徒諸君は、このSociety5.0を創造していく、Society5.0を生き抜く人材に成長する必要があります。そのような中で生徒諸君に特に求められているのは、情報及び情報技術活用能力だけではありません。それは、AIには代替できない人間固有の資質・能力を発揮するための人間の強みとしての「主体性」です。これがまさに力強い「つつき」です。生徒諸君には、常に身の回りの事象から価値や問題を見出す感性と力を、また、自己を認識しつつ、探究心や好奇心をもって最後まで粘り強く問題と向き合う態度を培ってほしいと願っています。

本日の創立20周年のめでたい節目を契機に、生徒諸君には、先輩諸氏がやむことのない努力で築き上げてきた伝統と校風に思いをいたし、本校の生徒であることに大きな誇りと感謝の気持ちを持つとともに、その伝統・校風をさらに充実・発揚させ、後輩に確実に

伝えていくのだという覚悟を新たにしてもらいたいと思います。また、本校が本年度こうして創立20周年を迎えることができたのも、冒頭に述べたように草創期からの本校関係各位の御尽力によるものばかりでなく、本校の母体校である門司高等学校・門司北高等学校両校の卒業生諸氏並びに地域の方々及び関係の皆様物の心両面にわたる温かい支援をこれまでいただけてきたからであるということを決して忘れてはなりません。これらの方々への本校に対する熱い思いや期待をしっかりと受け止め、希望に輝く門司学園の大いなる理想に向かって燃えるような気概と情熱を持って、なお一層の努力と精進を重ねてもらいたいと強く願うものです。生徒諸君の大いなる飛躍を心から期待しています。

最後になりましたが、これまで本校の充実・発展に多大なる御尽力を賜りました関係各位に衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも本校の教育活動に対しまして、一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。



挨拶

福岡県教育委員会

松永 一雄



吹きそよぐ風が涼やかに菊の香を運ぶ今日の佳き日、福岡県立門司学園創立20周年記念式典が挙行されるに当たり、福岡県教育委員会として一言御挨拶を申し上げます。

顧みますと、本校は、平成16年に門司高等学校と門司北高等学校を再編し、県下初の県立中高一貫教育校として、第一歩を踏み出されました。

創立以来20年、この地に集い、向学の意気に燃えて学ばれた卒業生は、地元のみならず全国各地で活躍されています。これもひとえに歴代の校長先生をはじめとした諸先生方の御尽力と、それに応え続

けた卒業生と在校生の皆さんの弛まぬ努力の結果であるとともに、保護者・同窓会の皆様、そして母校である門司高等学校、門司北高等学校の同窓会、さらには地域の皆様の本校教育に対する御理解、御支援の賜物であり、心から敬意を表する次第です。

さて、デジタル化の急速な進展など、激しい変化が常態化した現代社会では、「持続可能な社会の創り手として、社会に貢献し、リーダーとして活躍できる力」を持った人材が求められています。そのような中、本校では、校訓の「自立・勉学・創造」の理念を大切にしながら、新たな時代を担う自覚と責任のもと、自分自身の将来に確固たる信念を持って学習に取り組む生徒の育成に尽力されています。特に、中学校においては、学習内容の振り返りや定着のための「セルフタイム」の活用や、自己表現力・課題解決能力を高めるための「卒業論文」の作成、高校においては、総合的な探究の時間を活用した課題研究発表会を通して、新たな社会を切り拓く資質・能力の育成に取り

組まれています。部活動においても、昨年度、中学吹奏楽部の全国大会出場や高校美術部の全国高等学校総合文化祭への出場、高校水泳部の九州大会出場など、中学、高校ともに素晴らしい成果を収められています。今年度は、中高両方の吹奏楽部がそろって九州大会に出場し、金賞を受賞されました。また、中学校は、先日、行われた全国大会で銀賞という非常にすばらしい成績を残され今後の更なる活躍が期待されております。

生徒の皆さん、本日は、門司学園20年の歴史を心に刻み、今後の更なる躍進に向けて新しい一步を踏み出す日です。これを契機とし、なお一層、文武両道に励み、校歌に謳われているように「自立の心たくましく」「湧き出る希望を持った若人」として成長されることを心から願っております。

結びに当たり、本日御臨席の皆様並びに創立以来、本校の振興と発展のために多大なる御尽力をいただきました関係各位の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、県立門司学園の更なる発展のため、今後一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます、県教育委員会の挨拶といたします。



挨拶

創立20周年記念事業実行委員長
同窓会長

財前 裕一



菊薫る今日の佳き日、福岡県立門司学園中学校・高等学校創立20周年記念式典が挙行されるに当たり、創立20周年記念事業実行委員会並びに、同窓会「翠巒会」を代表して、一言御挨拶申し上げます。

はじめに、大変御多忙の中、この記念式典の開催に向けて御尽力いただいた、学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。いま、開校間もない頃、歩み始めたばかりの門司学園で過ごした日々を思い返し、「20周年」という言葉に、より一層その月日の重みを感じるばかりです。そして、今日こうし

て、本日御臨席賜りました皆様、教職員の皆様、そして在校生の皆さんとともに、母校の記念すべき節目をお祝いできていることに胸が熱くなる思いです。

本校は平成16年の創立以来、「自立・勉学・創造」の校訓の基、県立中高一貫教育校としての歴史を築いて参りました。時代は平成から令和へと移り変わり、時には教育活動が困難な状況もありましたが、それでも門司学園は歩みを止めることなく、一步ずつ前に進んで参りました。卒業後も、後輩の皆さんの活躍は私たちの耳にも届き、それは自分のことのように喜ばしく、自分ももっと頑張ろうと力もらったものです。これもひとえに、生徒の皆さんの弛まぬ努力と、諸先生方の御指導の賜物であり、周囲の皆様の惜しみない御支援によるものであると深く感謝申し上げます。

私たち同窓生に出来ることは僅かではありますが、部活動の支援や奨学金の支給を行うなどして、在校生の皆さんがより充実した生活を送ることができるよう、同窓

会として今後も力添えできればと思います。そして、前身の門司高等学校、門司北高等学校の時代から、これまで各地へ羽ばたき、様々な分野で活躍しておられる先輩方のように、後輩の皆さんが育っていくことを心より期待しております。本校が20年という月日をかけて築き上げた歴史と伝統をさらに磨き、未来の後輩へと継承してください。

また、みなさんが日ごろ、勉学や部活動に集中できる教育環境は、当たり前ではありません。教職員の皆様をはじめ、保護者の皆様、地域の方々、諸先輩方など、周囲の多大なる御支援があつてのものです。今日の節目に際して、改めてそのことを心に留めておいてもらいたいと思います。

最後となりますが、今日まで多大なる御尽力を頂戴致しました関係各位に、深甚なる敬意を表しますとともに、今後とも本校教育の充実・発展のために一層の御支援・御鞭撻を賜りますことを、心からお願い申し上げます。実行委員会・同窓会からの御挨拶とさせていただきます。



挨拶

PTA 会長
山下 和茂



門司学園中学校・高等学校、創立20周年という、大きな節目を迎えられますこと誠におめでとうございます。

創立以来、20年にわたり、地域や日本の未来を支える生徒を育む学び舎として、多くの優秀な卒業生を輩出できましたことは、本当に大きな誇りであります。

このように門司学園中学校・高等学校が隆盛を極め、地域や日本

社会に貢献できたのも、偏に、ご支援、ご鞭撻を賜りました、本日も臨席のご来賓の皆様、地域の皆様、同窓会の皆様、歴代の校長先生方をはじめ、中学校・高等学校の教育に高い志を持たれた、優秀な教職員の皆様のおかげであります。

また、お仕事の合間をぬい、子どもたちのために、朝な夕など、安全パトロールや体育大会や学園祭等の学校行事にご協力を賜りました多くのPTAの関係者の方々にも、心より感謝を申し上げるところです。

門司学園中学校・高等学校20年の歴史の中で、私は8年間PTA会員として、内4年間は役員として、様々な学校行事やPTA活動に、携わらせて頂きました。

多くの学校行事に携わる度に、生徒の皆さんの若いパワーに圧倒され、その度に沢山の元気をいただいております。これからもPTA

会長として、「すべては子どもたちの笑顔のために」を信条とし、学校運営の様々なサポートをさせて頂きたいと思っております。

最後に、門司学園中学校・高等学校20年の歴史の中で、本校を支えて下さった方の中には残念ながら他界された関係者の方もおられます。この場をお借りして、お亡くなりになられた方々に、心から感謝し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

終わりに、先達たちが築き上げてきた門司学園の歴史を引継ぎ、ご来賓の皆様、地域の皆様のご支援とご指導を賜り、教職員と保護者が一致団結し益々、門司学園中学校・高等学校が発展を遂げることを心より祈念いたしまして祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。



挨拶

福岡県公立高等学校長協会 北九州地区会長
福岡県立小倉商業高等学校長

谷川 陽一



豊穰^{ほうじょう}の秋を迎え、猿喰^{さるはみ}周辺の木々も色づき始めた今日の佳き日、福岡県立門司学園創立20周年記念式典が挙行されるに当たり、福岡県公立高等学校長協会を代表して心よりお祝いを申し上げます。誠にめでとうございます。

また、同窓会^{すいらん}翠巒会の皆様、PTAに関係する皆様、そして門司学園に関わってこられたすべての教職員の方々には、心より祝意を表したいと思います。

門司学園は平成15年11月に中学校が設置されました。同じ年に本日の記念式典の会場であるこのJ:COM北九州芸術劇場も誕生しています。何かの縁を感じます。そして翌平成16年、県下初の県立中高一貫教育校として、まず中学校が開校し、本年度で20年目を迎えられました。この間、中学・高校共に文武両面にわたり、着実

な成果を上げてこられ、県立中高一貫教育校として、県民並びに地域の方々や関係各位の強い期待に応え、その役割を見事に果たしておられます。

創立以来、歴代の校長先生をはじめ、諸先生方並びに生徒のみなさんが一体となって、中高一貫教育の理念を踏まえ、「自立・勉学・創造」の校訓の元、自己の夢や目標の実現に向けて、真剣かつ、積極的・意欲的に取り組んでこられました。高い知徳を持ち、生徒のために自己研鑽に励み、指導に当たっておられる先生方、進路実現を可能にする「確かな学力」を身につけるための努力を惜しまず、自他を認め合い、相手の気持ちを思いやる心を育てている生徒のみなさん、そして先生方と生徒のみなさんの間に見られる確固たる信頼関係、いずれも素晴らしい、ここまでの時間の中で、見事な門司学園の学校文化を築き上げられました。

この素晴らしい学校文化を背景に、進学面においては数々の入試制度の改革にいち早く対応され、一人一人を大切にする個別指導の充実をはかることで、難関大学をはじめとする国公立大学や私立大学等への進学実績は、年を追うごとに充実しています。部活動においても、運動部、文化部を問わず、

県大会、九州大会、全国大会へと出場しています。まさに「文武両道」といえるでしょう。20年という期間の中での、このような成果に、心から敬意を表します。

さて、本日の20周年記念式典を契機として、生徒の皆さんには、本校の伝統・誇りを継承しながら、今後更なる発展に向けて一層努力を重ねていただきたいと思います。門司学園の横には、石原宗祐^{いしはらそうゆうしゅうとくひ}頌徳碑があります。江戸時代中期、大里村の庄屋であった石原宗祐氏は、飢饉に苦しむ農民を救うため、私財を投入して干拓事業を行い、33ヘクタールにも及ぶ猿喰新田を開拓しました。なかでも、海水を新田に流れ込ませず、河川の流れを海へ流す役目を担う「汐抜き穴」を作るために一年もの歳月を要したと言われています。当時設置された四カ所のうち、二カ所が今でも残っています。宗祐氏の人と地域を想う心と高い技術力は、門司学園に学ぶ皆さんの道筋の一つになるのではないのでしょうか。

結びに当たり、本日御臨席の皆様方並びに、創立以来今日まで御支援をいただきました関係各位に深甚なる敬意を表しますとともに、門司学園が益々隆盛ならんことを祈念しまして、お祝いの挨拶といたします。

謝辞

生徒会長

松本 育珠



はじめに高い場所からの謝辞となりますことをお許してください。

門司学園創立20周年記念式典にあたり、生徒を代表いたしまして、感謝の言葉を述べさせていただきます。

大変お忙しい中、御来賓の方々をはじめ、多くの皆様に御臨席を賜り、このような盛大な式典を催していただいたこと、深く感謝申し上げます。

青く澄んだ海と緑が生い茂る山々に囲まれた自然豊かな環境で、充実した学校生活を送ることができる門司学園。その20周年という記念すべき年に立ち会えたことに、私達在校生一同、喜びと誇りで満ちあふれております。

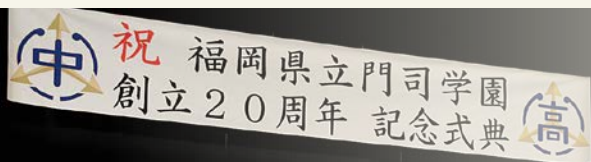
本日の式典の準備をする中で門司学園20年の歴史について、以前の記録を見聞きする機会がありました。また、本校に長くお勤めされている先生方、同窓生の先生方のお話にも触れました。これまでの先輩方が一生懸命に築き上げ、発展させてきた学校文化や伝統に思いを寄せ、今後、それに勝るとも劣らない新たな伝統を築き上げていくことが、私たちの義務であると今、決意を新たにしています。

私たち在校生一同がそれを自覚

し、これまで、卒業生の方々が築き上げてくださった門司学園を守り続けていくとともに、これからの新たなステージへ牽引していくべきだと、今、意を新たにしています。

また、本校の卒業生の方々はもとより、本校の母体校である門司北高等学校、門司高等学校の卒業生の方々と並びに地域の方々の期待に応えていくためにも、勉学や部活動、生徒会活動、そして自分自身を高める活動にと精一杯取り組んで参ります。

最後になりましたが、本日の記念式典を開催していただきましたこと並びに御臨席賜りました皆様に心からの感謝を申し上げまして、生徒代表謝辞とさせていただきます。



記念体育祭

5月31日(水)に「創立20周年記念体育大会」を開催した。様々な種目を工夫を凝らして実施し、大盛況であった。「閃〜生分の輝きを一瞬に〜」というテーマのもと、全員が大いに輝く場面があった。特に、20周年オリジナルTシャツを着用したうえで、全員でソーラン節を踊り、人文字を作成したのは圧巻であった。生徒は普段経験できないことを楽しんでいる様子が見られた。



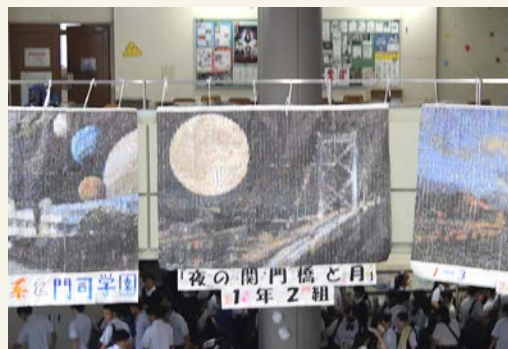
記念芸術鑑賞会

今年度は、20周年記念の芸術鑑賞会ということで今までに実施してこなかった内容にしたいと考えていた。生徒達の興味を考え、ダンスを今回の鑑賞会の演目とした。いろいろと調べた結果、「HAND SIGN」(ダンスを通して手話を学び福祉の心を育てる)に行き当たった。コンサートは、生徒達も巻き込んで、非常に楽しいものとなった。記念芸術鑑賞会にふさわしい内容であった。



記念学園祭

9月1日(金)、2日(土)に「創立20周年記念学園祭」を開催した。5年ぶりの2日間開催となったが、様々な企画が工夫を凝らして、訪れた方々を楽しませた。「星瞬～輝けこの瞬間～」というテーマのもと、中高生徒会を中心に、様々な催しが実施された。久々に一般の方も来校でき、どの企画も盛況で活気にあふれていた。特に体験型企画は好評で、陶芸体験など普段では経験できないことを楽しんでいる様子が見られた。



記念講演

門司学園高校の卒業生4名を招き、卒業後の進路や現在のお仕事、今後のチャレンジ等について話をいただいた。様々な分野で活躍する先輩の話はたいへん興味深く、生徒は真剣に耳を傾けていた。質疑応答の時間には多くの質問が飛び交い、講演会後に開かれた交流会にも多くの生徒が集まり、大盛況であった。



20年のあゆみ

MOJIGAKUEN
20TH ANNIVERSARY

中学校



入学式（中学校1期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校1期生の卒業アルバムより）



吹奏楽（中学校1期生の卒業アルバムより）



文化祭（中学校1期生の卒業アルバムより）



弁論大会（中学校2期生の卒業アルバムより）



修学旅行（中学校2期生の卒業アルバムより）

沿革

平成15年

- 1月 ・平成14年度第4回中高一貫教育研究推進委員会小委員会
- 2月 ・平成14年度第5回中高一貫教育研究推進委員会小委員会
- 4月 ・第2学区中高一貫教育校設立準備室を門司北に開設
・小倉高等学校総括教頭坂口秀俊、設立準備室長に補せられる
・平成15年度第1回中高一貫教育研究推進委員会
・平成15年度第2回中高一貫教育研究推進委員会
・平成15年度第1回中高一貫教育校教育課程検討委員会
- 5月 ・平成15年度第3回中高一貫教育研究推進委員会
・平成15年度第2回中高一貫教育校教育課程検討委員会

- 7月 ・平成15年度第4回中高一貫教育研究推進委員会
- 8月 ・第2学区中高一貫教育校学校説明会
- 9月 ・地区別中高一貫教育校学校説明会（小倉リーセントホテル・門司生涯学習センター・ウェル戸畑など）
・平成15年度第5回中高一貫教育研究推進委員会
- 10月 ・平成16年度募集要項説明会
- 11月 ・福岡県立門司学園中学校設置（門司北高等学校校地）
・第2学区中高一貫教育校設立準備室長坂口秀俊、校長に補せられる
・平成15年度第6回中高一貫教育研究推進委員会
- 12月 ・開校説明会

中学校



規律と友情の体験学習
(中学校3期生の卒業アルバムより)



定期演奏会 (中学校3期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (中学校3期生の卒業アルバムより)



文化祭 (中学校4期生の卒業アルバムより)



芸術鑑賞会 (中学校4期生の卒業アルバムより)

高等学校



学園祭 (高校1期生の卒業アルバムより)



体育大会 (高校1期生の卒業アルバムより)

- ・福岡県立門司学園中学校適性検査・面接合同説明会
- ・平成16年度入学者、適性検査・面接実施

平成16年

- 1月 ・平成15年度第7回中高一貫教育研究推進委員会
- 2月 ・平成15年度第8回中高一貫教育研究推進委員会
- 4月 ・福岡県立門司学園中学校開校式・第1回入学式

平成17年

- 4月 ・第2学区新高校準備委員会設置
- ・福岡県立門司学園中学校第2回入学式

平成18年

- 4月 ・第2学区新高校設立準備室を門司高等学校に設置

- ・福岡県立門司学園中学校第3回入学式
 - 11月 ・福岡県立門司学園高等学校設置 (門司高等学校校地)
- 平成19年

- 3月 ・福岡県立門司学園中学校第1回卒業式
- 4月 ・福岡県立門司学園高等学校開校式・第1回入学式
- ・福岡県立門司学園中学校第4回入学式

平成20年

- 3月 ・福岡県立門司学園中学校第2回卒業式
- 4月 ・福岡県立門司学園高等学校第2回入学式
- ・福岡県立門司学園中学校第5回入学式

中学校



規律と友情の体験学習 (中学校5期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (中学校5期生の卒業アルバムより)



体育大会 (中学校5期生の卒業アルバムより)

高等学校



文化祭 (高校2期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (高校2期生の卒業アルバムより)



体育大会 (高校2期生の卒業アルバムより)

沿革

平成21年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園中学校第3回卒業式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第3回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第6回入学式

平成22年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第1回卒業式
・ 福岡県立門司学園中学校第4回卒業式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第4回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第7回入学式

平成23年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第2回卒業式
・ 福岡県立門司学園中学校第5回卒業式
- 4月 ・ 校長坂口秀俊退職により、教育庁高校教育課参事兼指導主事固谷寛校長に補せられる
・ 福岡県立門司学園高等学校第5回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第8回入学式

平成24年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第3回卒業式



修学旅行（中学校6期生の卒業アルバムより）



学園祭（中学校7期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校6期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校7期生の卒業アルバムより）



中高合同文化発表会（高校3期生の卒業アルバムより）



門司学園祭（高校4期生の卒業アルバムより）



体育大会（高校3期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校4期生の卒業アルバムより）

- 4月 ・ 福岡県立門司学園中学校第6回卒業式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校校地移転（福岡県立門司学園中学校校地に統合）
- ・ 福岡県立門司学園高等学校第6回入学式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第9回入学式
- 6月 ・ 第1回体育大会（中高）
- 9月 ・ 第1回学園祭（中高）
- 平成25年
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第4回卒業式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第7回卒業式

- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第7回入学式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第10回入学式
- 6月 ・ 第2回体育大会（中高）
- 8月 ・ 創立10周年記念芸術鑑賞会（ミュージカル「レ・ミゼラブル・博多座）
- ・ 創立10周年記念招待試合（対戦相手：熊本県立済々黉高等学校）
- 9月 ・ 第2回学園祭（中高）
- 11月 ・ 創立10周年記念式典 創立10周年記念講演会

中学校



体育大会（中学校8期生の卒業アルバムより）



修学旅行（中学校8期生の卒業アルバムより）



中体連（中学校8期生の卒業アルバムより）

高等学校



学園祭（高校5期生の卒業アルバムより）



体育大会（高校5期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校5期生の卒業アルバムより）

沿革

平成26年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第5回卒業証書授与式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第8回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第8回入学式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第11回入学式
- ・ 宿泊体験活動（中学校）
- 5月 ・ 自助と共助を学ぶ宿泊体験（高校）
- ・ 第3回体育大会（中高）

- 9月 ・ 第3回学園祭（中高）
- 10月 ・ 野球部招待試合（対戦相手：門司大翔館高校）（高校）
- ・ 修学旅行（中学）
- 11月 ・ 創立記念式典、芸術鑑賞教室（ソレイユホール）



入学式（中学校9期生の卒業アルバムより）



自助と共助を学ぶ宿泊体験（中学校9期生の卒業アルバムより）



修学旅行
（中学校9期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校9期生の卒業アルバムより）



自助と共助を学ぶ宿泊体験
（高校6期生の卒業アルバムより）



クラスマッチ（高校6期生の卒業アルバムより）



学園祭（高校6期生の卒業アルバムより）

平成27年

- 1月 ・ 修学旅行（高校）
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第6回卒業証書授与式
・ 福岡県立門司学園中学校第9回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第9回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第12回入学式
・ 宿泊体験活動（中学校）
- 5月 ・ 第4回体育大会（中高）

- 6月 ・ 自立と協働を学ぶ体験活動（高校）
- 7月 ・ 芸術鑑賞会（北九州芸術劇場）（中高）
- 9月 ・ 第4回学園祭（中高）
- 10月 ・ 修学旅行（中学校）
- 11月 ・ 創立記念式典、創立記念講演会
・ 中華人民共和国訪日団来校

中学校



修学旅行（中学校10期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校10期生の卒業アルバムより）



野球部（中学校10期生の卒業アルバムより）



吹奏楽部（中学校10期生の卒業アルバムより）

高等学校



10周年記念式典（高校7期生の卒業アルバムより）



学園祭（高校7期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校7期生の卒業アルバムより）

沿革

平成28年

- 1月 ・ 修学旅行（高校）
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第7回卒業証書授与式
・ 福岡県立門司学園中学校第10回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第10回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第13回入学式
・ 宿泊体験活動（中学校）
- 5月 ・ 自立と協働を学ぶ体験活動（高校）
- 6月 ・ 第5回体育大会（中高）
- 7月 ・ 芸術鑑賞会（北九州芸術劇場）（中高）
- 9月 ・ 第5回学園祭（中高）
- 11月 ・ 創立記念式典、創立記念講演会（中高）



学園祭 (中学校11期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (中学校11期生の卒業アルバムより)



体育大会 (中学校11期生の卒業アルバムより)



体育大会 (高校8期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (高校8期生の卒業アルバムより)



自立と協働を学ぶ体験活動 (高校8期生の卒業アルバムより)

中学校



自立と協働を学ぶ体験活動
(中学校12期生の卒業アルバムより)



修学旅行
(中学校12期生の卒業アルバムより)



高等学校



修学旅行 (高校9期生の卒業アルバムより)



沿革

平成29年

- 1月 ・ 修学旅行 (高校)
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第8回卒業証書授与式
・ 福岡県立門司学園中学校第11回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第11回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第14回入学式
・ 宿泊体験活動 (中学校)
・ 自立と協働を学ぶ体験活動 (高校)

- 6月 ・ 第6回体育大会 (中高)
- 7月 ・ 芸術鑑賞会 (北九州芸術劇場) (中高)
- 9月 ・ 第6回学園祭 (中高)
- 10月 ・ 修学旅行 (中学)
- 11月 ・ 創立記念式典、創立記念講演会 (中高)



体育大会（中学校12期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校12期生の卒業アルバムより）



学園祭（中学校12期生の卒業アルバムより）



体育大会（高校9期生の卒業アルバムより）



文化祭（高校9期生の卒業アルバムより）

中学校



校外学習（中学校13期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校13期生の卒業アルバムより）



中体連（中学校13期生の卒業アルバムより）

高等学校



自立と協働を学ぶ体験活動
（高校10期生の卒業アルバムより）



マラソン大会（高校10期生の卒業アルバムより）



クラスマッチ（高校10期生の卒業アルバムより）

沿革

平成30年

- 1月 ・ 修学旅行（高校）
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第9回卒業証書授与式
・ 福岡県立門司学園中学校第12回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第12回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第15回入学式
・ 宿泊体験活動（中学校）

- 6月 ・ 第7回体育大会（中高）
- 9月 ・ 第7回学園祭（中高）
- 10月 ・ 修学旅行（中学）
- 11月 ・ 門司学チューター（高校生による中学生学習支援）
開始（中高）
・ 創立記念式典、創立記念講演会（中高）



学園祭 (中学校 13期生の卒業アルバムより)



第34回福岡県吹奏楽コンクール (中学校 13期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (高校 10期生の卒業アルバムより)



学園祭 (高校 10期生の卒業アルバムより)



体育大会 (高校 10期生の卒業アルバムより)

中学校



入学式（中学校14期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校14期生の卒業アルバムより）



自立と協働を学ぶ体験活動（中学校14期生の卒業アルバムより）

高等学校



自立と協働を学ぶ体験活動（高校11期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校11期生の卒業アルバムより）

沿革

平成31年

- 1月 ・ 修学旅行（高校）
- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第10回卒業証書授与式
・ 福岡県立門司学園中学校第13回卒業証書授与式
- 4月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第13回入学式
・ 福岡県立門司学園中学校第16回入学式
・ 宿泊体験活動（中学）
・ 自立と協働を学ぶ体験活動（高校）

令和元年

- 6月 ・ 第8回体育大会（中高）
- 7月 ・ 芸術鑑賞会（北九州芸術劇場）（中高）
- 9月 ・ 第8回学園祭（中高）
- 10月 ・ 修学旅行（中学校）
- 11月 ・ 創立記念式典、創立記念講演会（中高）



修学旅行（中学校14期生の卒業アルバムより）

学園祭（中学校14期生の卒業アルバムより）



マラソン大会（高校11期生の卒業アルバムより）



学園祭（高校11期生の卒業アルバムより）



中学校



自立と協働を学ぶ体験活動（中学校15期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校15期生の卒業アルバムより）



高等学校



入学式（高校12期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校12期生の卒業アルバムより）

沿革

令和2年

- 1月・修学旅行（高校）
- 3月・福岡県立門司学園高等学校第11回卒業証書授与式
・福岡県立門司学園中学校第14回卒業証書授与式
- 4月・福岡県立門司学園高越学校第14回入学式
・福岡県立門司学園中学校第17回入学式
・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自宅学習期間（オンライン授業）（中高）（中高別日に始業式を実施）

- さらに高校は学年毎に始業式を実施）
- 5月・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自宅学習期間終了（分散登校開始）（中高）
- 6月・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自宅学習期間終了（通常登校開始）（中高）
- 9月・第9回学園祭（1日短縮実施）（中高）
- 10月・修学旅行（中学校）
・創立記念式典、創立記念講演会



修学旅行（中学校15期生の卒業アルバムより）



中体連（中学校15期生の卒業アルバムより）



学園祭（中学校15期生の卒業アルバムより）



体育大会（高校12期生の卒業アルバムより）



クラスマッチ（高校12期生の卒業アルバムより）



学園祭（高校12期生の卒業アルバムより）

中学校



体育大会（中学校16期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校16期生の卒業アルバムより）



クラスマッチ（中学校16期生の卒業アルバムより）

高等学校



自立と協働を学ぶ体験学習（高校13期生の卒業アルバムより）



体育大会代替行事
（高校13期生の卒業アルバムより）

沿革

令和3年

- 3月 ・修学旅行代替旅行（当初1月に実施予定→中止）（高校）
・福岡県立門司学園高等学校第12回卒業証書授与式
・福岡県立門司学園中学校第15回卒業証書授与式
- 4月 ・福岡県立門司学園高等学校第15回入学式
・福岡県立門司学園中学校第18回入学式
・自立と協働を学ぶ体験活動（高校）
- 7月 ・体育活動発表会（高校）

10月 ・第10回学園祭（平日1日短縮開催）（中高）

- ・修学旅行（中学校）
・修学旅行（高校）

11月 ・創立記念式典、創立記念講演会、芸術鑑賞会



学園祭 (中学校16期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (中学校16期生の卒業アルバムより)



修学旅行 (高校13期生の卒業アルバムより)



中学校



入学式（中学校17期生の卒業アルバムより）



クラスマッチ（中学校17期生の卒業アルバムより）



体育大会（中学校17期生の卒業アルバムより）



中体連（中学校17期生の卒業アルバムより）

高等学校



クラスマッチ（高校14期生の卒業アルバムより）



芸術鑑賞会（高校14期生の卒業アルバムより）



沿革

令和4年

- 3月・福岡県立門司学園高等学校第13回卒業証書授与式
・福岡県立門司学園中学校第16回卒業証書授与式
- 4月・福岡県立門司学園高等学校第16回入学式
・福岡県立門司学園中学校第19回入学式
・宿泊体験活動（中学）
・自立と協働を学ぶ体験活動（高校）
- 6月・第10回体育大会（北九州市総合体育館）（中高）

- 9月・第11回学園祭（中高）
- 10月・修学旅行（中学）
- 11月・創立記念式典、創立記念講演会（中高）
・芸術鑑賞会（北九州芸術劇場）（中高）
- 12月・修学旅行（高校）



修学旅行（中学校17期生の卒業アルバムより）



学園祭（中学校17期生の卒業アルバムより）



修学旅行（高校14期生の卒業アルバムより）



体育大会（高校14期生の卒業アルバムより）



学園祭（高校14期生の卒業アルバムより）

令和5年

- 3月 ・ 福岡県立門司学園高等学校第14回卒業証書授与式
- ・ 福岡県立門司学園中学校第17回卒業証書授与式
- 5月 ・ 創立20周年記念体育大会
- 7月 ・ 創立20周年記念芸術鑑賞会
- 9月 ・ 創立20周年記念学園祭
- 10月 ・ 創立20周年記念式典



20周年学園祭ポスター



20周年缶バッジ

年間行事

4

入学式（中高合同）
自立と協働を学ぶ体験活動（中高別）

5

防災避難訓練（中高合同）
体育大会（中高合同）

6

7

芸術鑑賞会（中高合同）
サマーセミナー

8

九州歯科大学体験学習
（高校）

9

学園祭（中高合同）
オープンスクール（高校）



令和5年度の入学式については、開校以来、初めての中学校・高等学校の合同の入学式を挙行した。これは、平成25年度に校地が統合後の悲願であり、何度となく試みられたことであるが、新型コロナウイルス感染拡大等の諸事情のより見送られていたが、本年度、念願叶っての中高合同での入学式となった。

中学1年生3クラス、高校1年生4クラス、その保護者等が一堂に会して実施された入学式は圧巻であり、創立20周年の節目の年に、新しい歴史を築くこととなった。

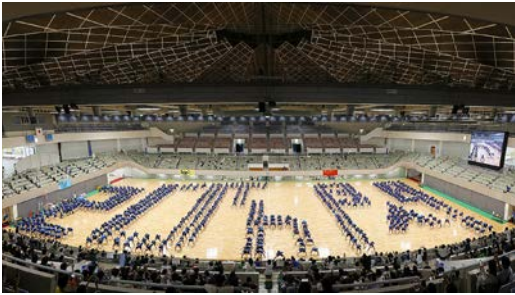
4月に行われる「自立と協働を学ぶ体験学習」は中学1年生は社会教育センターにおいて1泊2日の宿泊形式である。体験学習中は、オリエンテーションなど入学間もない生徒がお互いを知り、理解を深めるための活動を実施している。高校1年生の「自立と協働を学ぶ体験学習」は数年前から宿泊形式では行っていない。主に校内での活動や地域を知るための活動をしている。昨年度は門司港レトロ地区から下関までを散策して地域の歴史や文化についての理解を深めた。

本年度は、校内で集団行動を中心に行い、クラスの団結力や絆の強化に資する活動を行った。

令和4年度に引き続き、令和5年度についても北九州市総合体育館にて体育大会を実施した。練習は学校で行い、本番は総合体育館での実施と、なかなか本番の具体的なイメージをすることができない中で、体育大会実行委員会が中心となって最善の方法を考えながら取り組んだ。「20周年全員演技」では中学1年生から高校3年生までの門司学園生が一つになって演技を繰り広げた。

芸術鑑賞会は、毎年、J:COM 北九州芸術劇場で開催している。開校以来、「本物に触れる」という実施方針の下に行ってきた。狂言などの伝統芸能や演劇などの「本物」に触れることで生徒たちの感性を養ってきた。令和5年度は、ダンスを通して手話を学び福祉を育てるコンサートで知られる「HAND SIGN」の鑑賞会を行い、生徒たちを巻き込んだ演出は生徒に大きな感動を与えた。

8月に行われる高校の「九州歯科大学体験学習」も毎年実施している行事である。将来、医



学系や看護系への進学を考えている生徒たちにはたいへん好評である。

9月の学園祭については、令和5年度は「創立20周年記念」という言葉を冠して実施した。数年ぶりの一般公開を実施した2日間開催で、その上、生徒、保護者や地域の方々にさまざまな体験をしていただいて記憶に残る学園祭にしたいという思いがあった。陶芸体験、書道体験や生け花体験など多くの体験活動が催され、生徒だけではなく、来場者の方々に喜んでいただいた。

10月には中学3年生の関西方面への修学旅行が実施された。1日目は、奈良の薬師寺、東大寺や奈良公園を巡る。2日目は、ジャンボタクシーを利用した京都市内の班別研修である。それぞれの班が計画した名所・旧跡等を見て回った。3日目はUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）での研修を行った。

中学2年の大学訪問も中高教育一貫校である本校が重点的に取り組んできたものである。中高一貫教育校であるからこそできる、大学等の高校卒業後の進路実現を見据えたものである。

早い段階から大学に目を向けさせることで進学意欲の涵養を図っている。

創立記念式典と創立記念講演会は、学校の設立準備室が設置された11月に実施している。

「門司学ライブ」も本校独自の教育活動の一つと言える。多くの大学、専門学校や企業等の専門家に来校していただき、生徒たちは自分が興味や関心がある講座を2つ受講する。これも「本物に触れる」教育活動の一環で、専門家の講義を聴くことで、自分の興味・関心、さらには適性を見極める貴重な機会となっている。

高校の修学旅行については、新型コロナウイルス感染拡大以前は、スキー研修旅行と東京研修を組み合わせたものであった。ここ数年は熊本県と福岡県といった近郊であったが、令和4年度は愛知県・三重県と中京方面への修学旅行を実施した。令和5年度は、従来のスキー研修旅行（山梨県）と東京研修を組み合わせた形態に戻して1月に実施した。

卒業証書授与式は、中高別々に3月に実施している。

- 10 修学旅行（中学3年）
大学訪問（中学2年）
創立記念式典
- 11 創立記念講演会
門司学ライブ
- 12 ウィンターセミナー
- 1 修学旅行（高校2年）
- 2
- 3 卒業証書授与式
クラスマッチ



「門司学ライブ」
本紙記者も授業
門司学園中・高
創立20周年記念式典
が「江東区長選の選挙運動」
と東京、大阪、西部の各
本社発行の新聞で展開さ
れていることを示しながら、
紙面にさまざまな価値
判断が反映されている
ことを伝え、各紙を読み
比べて社会のあり方を考
えてみることを勧めた。
生徒からは「新聞の大
切さを学ばせていただき
た」「世の中に向けてい
い」といった感想が寄せ
られた。門司学ライブは
キャリア教育の一環とし
て2016年から毎年開
催。今回は昨年11月28日
に開かれた。

「反事件」「阪神優勝ハレ
ド」「沖縄での平和集法」
新聞の社会面トップ記事
が「江東区長選の選挙運
動」である。ある日の毎日
「門司学ライブ」と題し
聞ができるまで」と題し
て話した。

毎日新聞西部本社報道
部の伊藤和人記者も「新
聞の面白さ」を伝えるワ
ンにもあった。

門司学ライブ新聞記事（令和6年1月13日・毎日新聞掲載）

中高一貫教育校だから「門司学プラン」で育てます

（門司学園中学校・高等学校新6か年 キャリアプラン）

| 段階 学年 | 基礎期（自立期） | | 充実期（勉学期） | | 発展期（創造期） | |
|----------|--|--|--|---|--|--|
| | 中学1年 | 中学2年 | 中学3年 | 高校1年 | 高校2年 | 高校3年 |
| 重点項目 | ① 中学校生活の基本 習慣の確立 ② 読解力の育成 ③ 地域社会を知る | ① 中学校の学習内容の 基礎・基本の徹底 ② 文章作成力の養成 ③ 自己の能力・適性を 知る | ① 中学校の学習内容の 総合理解 ② 論理的表現力の養成 ③ 自己の能力・適性を 伸ばす | ① 高校生活の基本 習慣の確立 ② 読解力の強化 ③ 学問分野を知る | ① 自己管理能力の確立 ② プレゼンテーション 能力の向上 ③ 大学・学部・学科を 知る | ① 進路実現のための 学力の形成 ② 進路実現に向けた 意欲的な取組 ③ 自己の能力を社会に 生かす手段を知る |

中高一貫ならではの～ 高校生と一緒に活動

門司学チューター

高校生による中学生のための勉強教室
・中学生の質問に高校生がわかりやすく教えてくれます。
・月に1回程度で行われています。



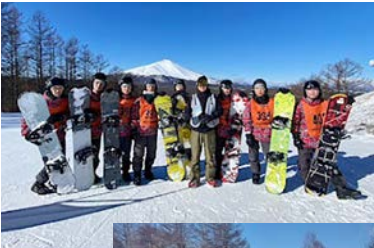
門司学チューター

門司学ライブ

多くの大学や企業から約30名の講師をお招きし、
講義や実習を通して将来の進路実現に役立てます。
・高校生と一緒に講義や実習を行います。
・高校卒業時の進路を考えながら取り組むことができます。



門司学ライブ

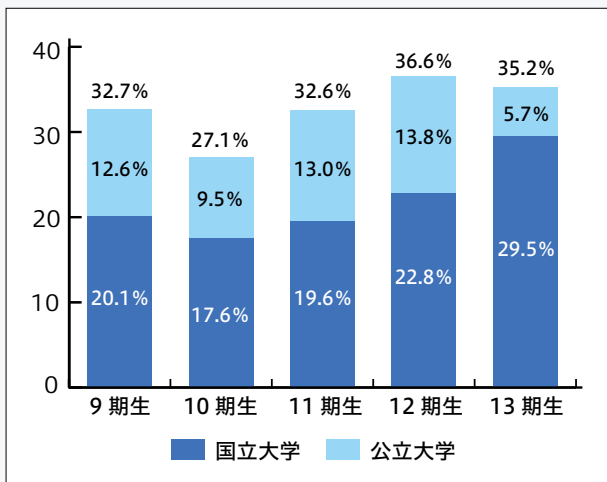


※クラスマッチの写真2枚は昨年度の様子

進路

3人に1人は、国公立大学に現役合格!!

国公立大学合格率 (現役生のみ)
(数値は卒業生に対する割合)



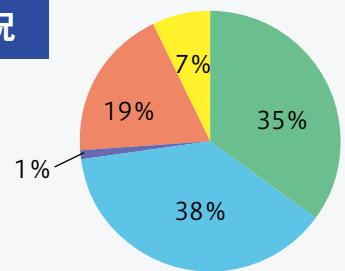
主な大学・大学院 (現役生・卒業生含む)

大阪大学、九州大学、広島大学、山口大学、九州工業大学、福岡教育大学、長崎大学、熊本大学、佐賀大学、宮崎大学、鹿児島大学、北九州市立大学、福岡県立大学、福岡女子大学など

幅広い進路に対応し、一人一人の「夢」を叶えます

13期生 進路状況

■ 国公立大学 35%
 ■ 私立大学 38%
 ■ 短期大学 1%
 ■ 専門学校 19%
 ■ その他 7%
 (各種大学校・就職・公務員等)



部活動（中学）

軟式野球部



門司学園中学校軟式野球部は、3年生10名、2年生4名、1年生9名、計23名で活動しています。部員全員が真剣に野球に取り組み、どうすれば上達するのかを考え、日々練習を頑張っています。学校生活を豊かにするために、野球部では、決まりを守る・あいさつをすることなどを徹底しています。部としての目標は、県大会出場です。一戦一戦誰一人としてあきらめることなく、全力でプレイしていきます。今年度の主な戦績、第40回全日本少年軟式野球大会県大会出場、北九州市選手権準優勝

陸上競技部



門司学園中学校陸上部は、現在3年生10名、2年生20名、1年生25名、計55名で活動しています。部員1人1人がどうすれば記録が伸びるかを考えながら、向上心をもって日々練習に励んでいます。また、学校生活全般にわたって、「あいさつ・整理整頓・時間厳守」のような規律を徹底することも大切にしています。目標は夏季大会・新人大会で、県大会に出場することです。今年は短距離種目（100m、4×100mR）で県大会に出場しましたので、長距離種目（駅伝）も県大会出場を目指しています。

バスケットボール部（男子）



今年度のバスケットボール部男子は、3年生9名、2年生9名、1年生13名の計31名で活動しています。夏季区内大会では、門司区2位となり、念願だった市内大会出場を男女共に果たすことができました。今後も、目標達成に向け日々精進していく決意です。

バスケットボール部（女子）



今年度のバスケットボール部女子は、3年生2名、2年生3名、1年生4名の計9名で活動しています。ここ数年、夏季大会・新人戦とともに市内大会に数回出場しており、今年度の夏季区内大会では、数年ぶりの男女同時市内大会出場を果たすことができました。今後も市内大会出場を目標に、更なる女子バスケットボール部の発展を目指して活動していく所存です。

バレーボール部（女子）



バレーボール部は、開校年度1年生7名で活動が始めました。2年目には24名に増え、徐々に力をつけていきました。平成20年度に門司区1年生大会で準優勝、平成21年度には門司区新人大会で準優勝し、初の市内大会出場を果たしました。

今年度は3年生5名、2年生11名、1年生5名の21名で活動を行っています。夏の中体連門司区内大会では、3位入賞を果たしました。バレーボールができる事への感謝の気持ちを胸に、キャプテンを中心に市内大会出場を目指して、日々の練習に取り組んでいます。

ソフトテニス部（女子）



ソフトテニス部は、現在3年生13名、2年生9名、1年生6名の計28名で活動しています。市内大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。

吹奏楽部



吹奏楽部は、初めて楽器を体験する生徒が楽しんで演奏できることをモットーに日々活動しています。中高一貫教育校の特色を生かし、高校生との合同練習や高校生・OBの先輩方からの個人指導で力をつけ、吹奏楽コンクールではこれまで8度の九州大会出場、そして今年度は3年連続となる全国大会出場を果たし、銀賞を受賞しました。今後は全国大会金賞受賞を目標にさらに努力し、また聴いてくださる方々に感動を届けられるような演奏を目指して日々練習に励んでいきます。

英語クラブ



中学英語クラブは部員52名で活動しています。今年度は前期は「創造する」をテーマに英語劇の準備や練習を行い、成果を学園祭で発表しました。後期は「発信する」をテーマに外部開催の英語スピーチコンテストへの参加、ALTvisitへの参加、他校交流などに取り組んでいます。また、通年での取り組みとして英語の勉学にも各自で取り組んでいます。

写真は今年度の部活動をリードしてくれた3年生の集合写真です。

部活動（高校）

剣道部



私たちは現在、男子4名、女子10名の計14名で活動しています。高校から剣道を始めた部員も多いですが、剣道初段に合格するなど、少しずつ力をつけてきています。今年度は1年生が多数入部し、道場もますます活気づいてきました。また、女子は数年ぶりに玉竜旗に出場することができました。残念ながら、全国の精鋭選手に敗れてしまいましたが、向上心を刺激される良い機会となりました。「稽古を通して心身を鍛錬する」という剣道の理念の基で、今後も稽古に励んでいきたいと思ひます。

水泳部



水泳部は現在、3年生男子2名・女子6名、1年生男子2名・女子9名の計17名で活動しています。

中学に水泳部がないため、ほとんどの部員が未経験者ですが、皆で切磋琢磨しながら、一人一人が自己ベストを目標に日々練習に励んでいます。日頃の練習の成果も形として表れており、大会では着実に自己ベストを更新しており、昨年度は秋の九州大会である末広杯に50m、100mの背泳ぎで出場することが出来ました。これからも部員一丸となって、活動に励んでいきたいと思ひます。

ソフトテニス部



ソフトテニス部は現在、3年生男子2名女子5名、2年生男子4名女子4名、1年生男子2名女子7名の計24名で活動しています。女子は門司学園中学校にソフトテニス部があるので経験者が多く入部しておりますが、男子は高校からしかソフトテニス部がないため大半が未経験者です。しかし、男女混じて練習することで、技術的なことやルールのなことを教え合える環境で活動ができています。

練習は水曜と土曜を休養日とし、週5日行っています。

「最後まで諦めない」ことをモットーとして県大会出場を目指し、これからも活動していきたいと思ひています。

バスケットボール部



バスケットボール部は男女合同で活動しており、少ない人数ながらも休養日を除きほぼ毎日活動しています。県大会出場を目標に、自分たちでできることは何かを考えながら練習に励んでいます。さらに、社会人としてに必要な協調性や自主性を育み、社会で活躍できるように部員同士協力しています。また、令和2年度には女子が北部ブロック8位に入賞し、県大会に出場（新型コロナウイルス感染症のため中止）しました。多くの人に応援してもらえるように一生懸命頑張っています。

バレーボール部（女子）



○あれから10年

前回の10周年記念誌を執筆してから、はや10年が経とうとしています。10年前の部員数と現在の部員数は大して変わりはない状態で、なんとか大会には出場できているような状態です。現在2年生6名（うち男子部員1名、マネージャー1名）、1年生4名で地区大会1勝を目標に日々練習に励んでいます。生徒数が10年前よりかなり減り、部員数確保も難しくなっている昨今、生徒達はよく頑張っているなど感じています。応援よろしくをお願いします。

ラグビー部



ラグビー部は現在、3年生7名、2年生13名、1年生2名の計22名で水曜を休養日とし週6日活動しています。

在籍している生徒の9割が、高校からラグビーを始めた生徒です。福岡県は強豪校が多いですが、そのような中でも2大会連続県大会出場を果たすなど、全員がひたむきに努力を重ねています。「規律」を最も大切にし、現在のチーム目標は福岡県ベスト8進出です。

陸上競技部



私たちは現在、男子10名、女子11名の計21名で日々活動をしています。毎日約2時間の短い練習時間の中で、自己ベストの更新や県大会への出場を目指しています。令和4年度には、男子は砲丸投げ、女子は400mハードル、1500mで県大会出場を果たしました。また、駅伝の県大会には毎年出場しています。今年度は男子3000m障害で県大会出場を果たしました。陸上部は、上記のような競技での好成績のみならず、勉強にも力を入れており、毎年多くの国公立大学の合格者を輩出しています。今後の陸上部の活躍を期待してください。

野球部



2016年春の九州大会予選では、県大会であるベスト8に進出しました。また、門司学園高校野球部として初めてとなる招待試合にも出場し、甲子園に出場経験もある強豪校と対戦しました。その後も、2019年夏の選手権予選や2021年夏の選手権予選で県大会に出場しました。その他にも、コロナ禍で行われた夏の地区大会ではベスト4に進出するなど、着実に成果を上げています。今後は、コンスタントに県大会へ出場し、先輩方が叶えることが出来なかった「甲子園で校歌を歌うこと」を目標に日々精進していきたいです。

演劇部



演劇部は学園祭の公演や高文連の大会への出場など、継続的に活動をしています。高文連の大会では、平成20年に地区大会で優秀賞を受賞、県大会へ初めて出場したのを皮切りに、令和2年からは4年連続地区大会最優秀賞、県大会へと進出しています。特に令和4年は県大会で優秀賞二席（第4位）、令和5年は県大会優秀賞一席（第3位）を受賞するなど、九州大会出場まであと一歩のところまで来ています。

部員の増減はありますが、お客様の心に届く上演を目指して頑張っていきます。

科学部



科学部は「宇宙船地球号の乗組員として、科学的真理を探究し、持続航行可能な未来に貢献する」を活動方針として日々科学探究に励んでいます。個人の探究テーマに沿った科学研究の他、学園祭では実際に体験できる演示実験や化石レプリカの製作体験や研究報告などを行っています。令和5年は地域連携事業にも参加させていただきました。また、久留米工業大学主催「モノづくりコンテスト」では、リモコンフライト部門・フリーフライト部門ともに準優勝・優勝という成果を収めています。今後も答えなき問いを探究し続けていきます。

茶華道部



茶華道部は、月・水・木・金の週4回活動し、水曜日は華道、金曜日は茶道の専門の先生にお稽古して頂いています。小倉城庭園で行われる高文連主催の学生茶会及び裏千家茶道の夏の学生茶会に毎年参加しています。高いレベルの茶道の技術を身に着け、こうした公式の茶会でお点前・半東・運びなどを行うことが生徒の目標になっています。卒業時に茶道の許状を取得する生徒も多いです。日々の自主練を生徒同士で切磋琢磨しながら厳しく徹底し行うことが門司学園茶華道部の伝統となっています。

書道部



書道部は、人数が少ない状況でした。令和5年度は3年生1人のみでの活動で、存続が危ぶまれましたが、後半には1年生が2人入部し、書道部の歴史はつながりました。まずは書道の基本をしっかりと練習して、県大会、さらにその上の大会を目指して頑張ります。そして、もっと部員が増えて部活動が活性化したら、今までできなかった書道パフォーマンスにも挑戦したいと思います。

吹奏楽部



吹奏楽部は、「心をひとつに、凡事徹底」をモットーに、聴いてくださる方々に感動を届けられるような演奏を目指し、日々練習に励んでいます。今年度の吹奏楽コンクールでは、4年ぶり5度目となる九州大会出場を果たし、見事金賞を受賞しました。また、今年度は新たな試みとして本校体育館で地域の方々に向けコンサートを開きました。今後は全国大会出場を目標にさらに努力し、また地域の方々には私たちの演奏を聴いていただける機会を増やしていく中で、音楽の素晴らしさを多くの方々に伝えていきたいと思ひます。

美術部



門司学園高校美術部は、開校当時は中学教諭の川口先生の熱心な指導の下、高文連の地区大会や県大会では多くの生徒が入賞しています。その中でも特に、平成24年の第27回福岡県高等学校総合文化祭、美術・工芸部門 県大会において、当時2年生の白石愛理が、絵画部門で「全国大会推薦」を受賞し、令和4年第47回大会でも当時2年の岸本桃果が「全国大会推薦」を受賞するなど、本人はもちろんのこと、美術部全員にとって大きな励みとなっており、今後の制作意欲にもつながっています。

インターアクトクラブ



インターアクトクラブはロータリークラブのご支援のもと、社会奉仕や地域貢献、国際理解活動に取り組んでいます。現在部員は1年生6名、2年生5名、3年生4名の計15名です。校内では定期的に猿喰海岸の清掃活動、ペットボトルキャップの回収を行っています。また、校外ではユニセフやあしなが育英会の募金活動や門司港駅周辺の清掃活動・門司港栄町銀天街での夜市のボランティアや地芋プロジェクトなど、さまざまな活動に参加しています。今年度は2月に行われる6校合同例会のホスト校となり、例会の企画・運営を行う予定です。



生徒会活動

中学校

生徒会活動では、同じ中高一貫教育校である育徳館中学校の生徒会との交流会や、門司みなと祭のパレードに参加するなど校外での活動を行うことができた。また、校内においても、学校行事での活動やいじめ防止の取り組みなどを行った。しかし、近年は新型コロナウイルス感染症により、生徒会活動も様々な制限を受けた。今年度は20周年記念行事が様々なかたちで行われた。記念体育大会や、記念学園祭、記念創立式典など幅広い場面で活動した。次の10年に向けて、より生徒会活動を活発に行い、生徒会の活動でより多くの人に門司学園を知ってもらえるようにしたい。



高校

令和5年7月、第17代の生徒会活動がスタートした。今年度は、感染症が収まりつつある中で、従来の教育活動に切り替わり、始業式や記念式典等の学校行事が対面式で行われている。生徒会活動においては、オンラインでの学校行事に慣れていたため、準備から進行まで全てが1からのスタートとなった。校外での生徒会活動も活発に行われるようになり、8月の沖縄県与勝高等学校との生徒会交流や同月の「ミライトークin門司」、10月の「いざ行け小倉城！」では、門司学園高等学校を校外に宣伝する大きな機会となった。今年度は創立20周年にあたり、5月の北九州市立総合体育館での体育大会、9月の2日間開催となった学園祭、そして、10月の創立記念式典の大きな行事に参画する

ことで、生徒会活動が充実したものになった。最後に、生徒会を中心に校則の見直しについても議論を進めており、門司学園高等学校の更なる発展の為の今度の活躍に期待している。





校訓と校歌のことなど

初代校長
坂口 秀俊

「自立・勉学・創造」の校訓を決定したのは、20年半前の平成15年4月のことであった。設立準備室の4人で協議して決めた校訓であるが、私の頭には、幕末福井藩の橋本左内『啓発録』や長州藩の吉田松陰『士規七則』等が浮かんでいた。他にも、学生時代から慣れ親しんだ古典の名句がいくつも去来したが、「自立・勉学」までは良く使用される言葉であり、自然に決めた感がある。「創造」については、比較的新しい用語であり、大正中期、第一次世界大戦終了頃から一般的に成った。全く新しい学校を創るという使命を与えられたのであり、教職員・生徒と共に創っていこうという発想で制定した。「創」の旁は「りっとう」つまり刀である。全校集会で生徒には、新しい事に挑戦したら、時に試練にぶつかり、自らが傷つくこともあるが、それを乗り越えて、未来を切り開いて貰いたい、と何度も語りかけた。校訓をもとに作詞した校歌を作曲者の畑中良輔先生に送付した

際、先生は校訓の意味を読み取られ、伴奏楽譜には前奏と二番のあとに激しい不協和音を入れ、混沌とした世の中を、是非若人の力で切り開いて貰いたい、と強く語っておられた。

平成23年3月に定年退職して13年目になる。大学の教職課程で教鞭を執る傍ら、久留米水天宮に通い、幕末尊攘の志士で水天宮の神主であった眞木和泉守の自筆の日記・書簡控などを読んでいる。眞木和泉守は幽閉期間が長く、歴史の舞台に登場したのは文久2年（1862）から元治元年（1864）までの僅かな間である。元治元年7月の禁門の変（蛤御門の変）で敗れ、山崎天王山で壮烈な自刃をした。その和泉守は幽閉中に膨大な量の文章を書き残しているが、その中に『何傷録』という長大な論文がある。その中に「学問論」がある。

「学問せねば吾身に生れつきたる善ある事の之しらず、まして他の徳あるもなきも弁へず。（中略）学業は志・才・気の三つなければ成就せ

ず。まづ士たらんものは志を高く大に立つべし。志を高大に立つればおのずから才もますもの也。（中略）固より学業といふもの外のものにもあらず。人たる道を知りて人たる事業をなさん為なり。」

この学問論を読んだのは今から10年ほど前であるが、門司学園の校訓に通じると思った。志才気の三つが相互に作用し合えば、人の道を知り、大事業が出来る、と和泉守は語る。

令和5年1月30日、中嶋恭子先生が永眠された。門司高校時代の昭和61年からの長いつきあいであり、ともに力を尽くして門司学園を創った同志である。残念でならないが、彼女が吹奏楽の指導などで、校訓の事を良く語っていたそうである。吹奏楽に限らず、門司学園に集う生徒諸君は、校訓に込められた思いを是非理解し、新しい未来を創造して頂きたいと願っている。



祝 辞

第3代校長

田中 浩子

福岡県立門司学園中学校・高等学校が創立20周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。学校創立12年目にあたる平成27年度に第3代校長として赴任し、開校から11年間に築き上げて来た学校文化の素晴らしさを深く感じました。

当時から中高共に特に英語教育に力を入れており、イングリッシュサマーセミナーや英語暗唱大会、英語スピーチコンテストなど、年間を通して教育活動の所々に英語教育が位置付けていました。また、中学校では課題解決型の「総合学習」が既に始まっており、高等学校では「夢を語るコンテスト」など、時代を先読みした教育活動が展開されていました。生徒たちがこのような活動に主体的に取り組み、その経験を積み重ねていくことによって逞しく育てて欲しいと、大きな期待感を抱いていたものです。

当時、世の中では「人工知能と共存する社会の到来に向けて、人に求

められる能力は何か」などの話題が高まっていた頃でした。門司学園の生徒にも、卒業後は・社会で有為に働く人になってもらいたいという願いから、始業式や終業式の式辞や学校行事の挨拶などでは、物事に果敢に取り組む姿勢が必要であることを伝え続けてきました。予測困難な社会で活躍するには、失敗を恐れずに仲間と協働して挑戦する力を学校生活で身に付けて欲しいと願っていたからです。先生方も私の意を汲んで指導にあたってくれ、2学期に行われた高校2年生のスピーチコンテストの代表者選出では、日頃あまり目立たない生徒が前面に出ることができる工夫をしてくれました。

生徒は練習を積んで当日に臨んだことと思います。終了後の講評では、優勝した生徒への賞賛とともに、勇気を出して挑んだ他の生徒へも激励を贈ったことを覚えています。生徒には、物怖じせず堂々と自分を表現できるように成長して欲しいと常に思っていました。

3月末の異動の時には、3年生が卒業し最上級となった8期生（当時高校2年生）から、私宛てに一人ずつが書いたメッセージカードを綴ったファイルをいただき、思いがけないプレゼントに胸が熱くなりました。その後退職までの5年間に様々な事がありましたが、辛いときには生徒達がくれた言葉を読み返して励まされました。今でも、教職時代の宝物となっています。

校長としての在職期間はわずか一年間でしたが、素晴らしい生徒や職員に恵まれ学校経営に専念できたことに感謝しています。また、その際には、学校及び卒業生1,100人という若い同窓会「翠巒会」を物心両面から支えてくださった硯友会（門司高校同窓会）、門浪会（門司北高校同窓会）の皆様のお力添えがあったのこととお礼申し上げます。

今後も、門司学園中学校・高等学校が県下に誇る県立中高一貫校として益々躍進していくことを心より祈念しております。



祝 辞

第4代校長

平井 秀典

県下初の中高一貫教育校として県民の期待が集まる中で開校した福岡県立門司学園中学校・高等学校が、今年記念すべき創立20周年を迎えられ、ここに記念誌が刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

私は、平成28年度から平成30年度まで勤務させていただきました。

平成28年度は、高等学校教育改革や大学入学者選抜改革等について議論されている時期で、本校でもアクティブラーニングの手法を取り入れた授業の研究が進められていました。平成29年度から「中高連携による門司学園の更なる『魅力化』の推進」を掲げて教育活動に取り組みましたが、その一環として、県教育委員会から配備された移動式電子黒板に加えて、PTAのご支援により各普通教室に壁据付型プロジェクターが設置され、ICTを活用して、アクティブラーニングによる授業や学校行事におけるプレゼンテーションなど、確かな学力や思考力・判断力・表現力を身に付ける教育活動の実践

が展開されました。

平成30年度は、門司学園創立15周年に当たることから、体育大会や文化祭等の学校行事は「創立15周年記念」の文言を冠して実施され、生徒の皆さんは門司学園の良き伝統を継ぎつつ新たな歴史を刻もうという気持ちで臨みました。創立記念式典・芸術鑑賞会では、日本の伝統文化である話芸に親しむ機会として北九州芸術劇場にて落語や講談、漫談を鑑賞しました。出演者のうち「ロバート」（三人のうち秋山竜次・馬場博之両氏は門司北高校出身）の皆さんは、在学中のエピソードを交えながら記念講演をされ、後輩たちに温かいエールを送ってくださいました。また、中高連携の一環として、この年、高校生が放課後等を利用して、本校中学生に勉強を教えたりアドバイスをしたりする「門司学チューター」という、中学生と高校生の新たな交流の場が創出されました。

中学・高校の部活動では、県大会、九州大会、全国大会へと出場した

り、また、個人として国民体育大会県代表選手やナショナルチーム代表等に選ばれたりする生徒もおり、放課後、日々一所懸命に活動する部活生たちの姿が印象に残っています。

3年間本校で勤めさせていただくことができましたことは誠に光栄であり、生徒・保護者、職員の皆様の御理解と御協力、門司学園PTA、同窓会「翠巒会」をはじめとする本校関係者、そして、温かく見守り支えてくださる門司北高校・門司高校両母校同窓会（門浪会、硯友会）、地域の方々及び地元各関係の皆様のお蔭であると心から感謝申し上げます。

門司学園生は、開校以来、新しい未来を見つめ、果てしなく広がる夢を心に描きつつ、主体的・積極的に学業に勤しみ、常に輝きを放って来られました。福岡県立門司学園中学校・高等学校が、これからも力強く歩み続け、さらにその輝きを増していかれんことを祈念いたします。



祝 辞

第5代校長

井上 英彦

福岡県立門司学園中学校・高等学校が、本年度創立20周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、記念事業の一環として『創立20周年史』が編纂、刊行される運びとなりましたことは、誠に慶びに堪えないところです。

本校は、県の再編整備計画に基づき、門司高等学校と門司北高等学校を再編・統合して、平成16年に県立初の中高一貫校として開校し、中学校は20年目、高等学校は17年目を迎えております。初代校長である坂口秀俊先生が、地域の期待に応え、自らの教育方針を実現するために、「自立・勉学・創造」の校訓を定め、「文武両道・質実剛健」を校是として、勉学と部活動・生徒会活動の両面に力を注ぐとともに、社会的知性を陶冶して、「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を目指されました。その教育方針は、時代とともに、制度も変わりましたが、その理念は脈々と受け継がれ、現在の本校の精神風土が醸成されてまいりました。本校で培われた、ひたむきに努力する態度、真理を探究する姿勢、切磋琢磨し合う仲間との友情は卒業生の皆様のこれまでの人生を支えてきたものと思います。

さて、私は平成23年から2年間、高校の教頭として本校にお世話になり、令和元年から再び校長として2

年間、勤務させていただきました。教頭として赴任しました平成23年は高校が門司港の丸山の地に、そして中学は7km離れた猿喰の地であり、中高一貫校といっても中高合同の行事を行うのも大変でした。翌年に高校が丸山から中学校がある猿喰へ移転することとなっていました。が、高校生の通学手段の確保が課題としてありました。西鉄バス北九州と交渉して、JRの乗り継ぎを考慮しながら、門司駅方面・門司港駅方面・下曾根駅方面からの路線バス28便の増便が決定していました。さらに、高校生用のスクールバスの確保のために、朝倉事務長が中心となり各業者と精力的に交渉を行い、つくしの観光バスによる運行が決定しました。その他にも、生徒諸君や先生方と一緒に引越しに携わったこと、食堂の確保や部活動の活動場所等の課題を全職員で解決したことが懐かしく思い出されます。

また、校長として赴任した令和元年度に、新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大し、本校の教育活動にも大きな影響を与えました。令和2年2月27日の夕刻に突然打ち出された臨時休校により、卒業式は規模を縮小しての実施、3学期終業式や吹奏楽部の第8回定期演奏会は中止を余儀なくされました。更には、休校が令和2年5月17日まで延長され

たことにより、生徒への学習保障は勿論のこと、入学式や1学期始業式は、式典形式がとれず放送で実施することになりましたし、自立と協働を学ぶ体験活動や体育大会などの学校行事も中止や延期の措置を取らざるを得ませんでした。学校が再開されても新型コロナウイルス感染症や熱中症に対応しながら教育活動を行わなければならない、特に、令和2年度の修学旅行については、中学校は計画通りに実施することができましたが、高校のスキー修学旅行は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、保護者の皆様にもご理解をいただき、1泊2日の熊本旅行に変更することになりました。今思えば、激動の2年間を何とか乗り切れたのは、まさに同窓会、保護者の皆様、そして生徒の皆さんと教職員の皆さんの一致団結の賜物であったと確信します。

この『創立20周年史』が、素晴らしい本校教育の証となり、未来の本校を導く指標となることを祈念しております。終わりに当たり、編集に携わっていただいた教職員の皆様方に感謝申し上げますとともに、同窓生の皆様、父母教師会の皆様、教職員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



創立20周年を祝して

第6代校長

青木 喜人

福岡県立門司学園中学校・高等学校の創立20周年を心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

本校は、県の再編整備計画に基づき、門司高等学校と門司北高等学校を再編・統合して、平成16年に県立初の中高一貫校として開校し、中学校は20年目、高等学校は17年目を迎えています。平成24年度には猿喰校舎へ中学校・高等学校の校地が統合されました。中高生が共に「自立・勉学・創造」の校訓のもと良き伝統を継承しつつ、主体性をもって行動し、向学心篤く、新しい時代を切り拓くたくましさを備えた人間へと成長するべく、勉学・部活動・生徒会活動・学校行事等に取り組まれています。その結果、中高一貫教育における異年齢交流の成果として、生徒がとても落ち着いており、周囲への心配りができ、学年が上がるごとに授業に対する集中力が増えています。また、確かな信頼関係のもと、教師と生徒の対話、生徒

同士の対話を通して授業をはじめ様々な教育活動が進められており、個別最適な学びが実践されています。学校生活における生徒の満足度も高く、高等学校卒業時の進路実績も充実しています。

本校の敷地内には門司北高等学校の校訓が書かれた石碑と門司高等学校の校是が書かれた石碑が建てられています。門司北高等学校は明治40年（1907年）に門司市立門司高等女学校として開校し、門司高等学校は大正12年（1923年）に福岡県立門司中学校として開校しました。どちらも地域から厚い信頼を受け、素晴らしい実績を残してきた学校です。門司北高等学校の校訓は3つあり、その一番目が「誠実にして責任を重んずる」です。そして、門司高等学校の校是は2つあり、一つ目が「至誠至純」です。「至誠」とは、極めて誠実なことであり、「至純」とは、このうえなくまじりけのないことです。奇しくも本校の母体校である二つの学校がともに目指していた

ものは「誠実である」ことでした。これは、115年を超える歴史のなかで、脈々と受け継がれてきた思いであると感じています。

「誠実である」とは、私利私欲をまじえず、真心を持って人や物事に対することです。もっと言えば、人を大切にし、物を大切にし、仕事を大切にし、自分を大切にすることだと理解しています。私自身がそうありたいと思っていますし、門司学園生の皆さんにもそうあって欲しいと願っています。

終わりにになりましたが、福岡県立門司学園中学校・高等学校がこれからも地域の期待と信頼に応え続け、益々充実・発展されることを心より願っています。



門司学園創立20周年に寄せて

第1期卒業生

福地 瑶美

初任者として母校門司学園に赴任して以来8年間、門司学園中学校・高等学校で勤めさせていただいております。20周年の節目の年を母校で教職員として迎えることは、とても感慨深いことです。ここで、在校時の学校の様子を振り返り、20年の本校の歴史の始まりに思いを馳せたいと思います。

20年前、1期生として門司学園中学校に入学し、門司北高等学校の先輩方と同じ、猿喰の校舎での学園生活が始まりました。どこから、どのバスに乗ればよいかも分からない、小学校を卒業したばかりの私たちには、高校生先輩方の姿がとても大人びて見えました。また、「第1回」と名のつく様々な学校行事を、生徒だけで作り上げるには私たちはあまりにも幼く、先生方の御指導御協力の中、一つ一つを作り上げていきました。学習面においては、教科書の内容に加えて高校の教材等を用いて、発展的な学習を行ったり、大学の雰囲気や本物の芸術に触れる校外学習にも度々出かけたりしました。当時、幼いながらも先生方の愛情は感じていましたが、教員となって改めて振り返ると、それに加えて、教育に対する強い情熱があったのだと思い返されます。

高校入学とともに、門司高等学校のあった丸山の校舎に移ると、他の中学校からの進学生3クラスも加わり、新たな気持ちで高校生活を始めることができました。自分たちとは違う学校文化で育ってきた新しい仲間とは、初めはクラスも異なりぎこちない関係でした。しかし、様々な学校行事や部活動を通して少しずつ打ち解けていきました。体育大会で声が枯れそうになりながら校歌を歌ったことや、マラソン大会で校舎裏の険しい坂道を駆け抜けたことは、懐かしい青春の思い出です。

そして、門司高等学校の閉校式では、門司北高等学校を含め、母体校の歴史を継承するという意味を深く考えさせられました。日常生活は、授業の予習やテストの勉強に追われていましたが、愛情持って厳しく鍛えてくださった先生方のお陰

で、今こうして教壇に立てているのだと、心から感謝しています。また、切磋琢磨し合い、ともに「学び」を楽しむことのできる友を持てたことも、私の一生の宝です。

教員として猿喰に戻った頃は、お世話になった先生方がまだ多数勤務されておりましたが、少しずつ転勤や退職を迎えられ、卒業生としては寂しく、心許なく感じているところです。しかし、学生時代に見ていた先生方の姿を思い返す度に、今の自分は先生方と同じように生徒と向き合っているだろうかと自問自答する日々です。後輩でもある生徒たちとともに、これからの門司学園の歴史を創っていくよう、微力ながらも力を尽くしたいと気持ちを新たにしています。



同窓職員

門司学園開校に20周年に寄せて

門司学園高等学校同窓会『翠巒会』代表

財前 裕一

門司学園という学び舎が福岡県・北九州市の地に生まれ、本年で記念すべき20周年を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

20周年記念誌の制作にあたり、同窓会代表としての寄稿文を依頼され、このような大役を果たして私が引き受けて良いものかと恐縮に感じております。同窓会会長と言うよりも『一卒業生』としての立場から、貴重な記念誌の項を拝借いたしますことをお許しください。

私は門司学園高校の二期生として、当時『外進』と呼ばれていた立場で、中学からではなく高校から入学しました。

『本校の歴史を創るのは、諸君である』

初代学校長・坂口秀俊先生が式典・集問わず、多くの学校長挨拶で口にされていましたが、入学当初の私は今では恥ずかしいほど学校への関心を持っておらず、ただの言葉として耳に入れているだけでした。

しかし入学して半年が経つころに、当時発足して間もない生徒会の副会長に立候補することになります。正直に申し上げますと、立候補者がおらず、当時の担任の先生から相談されて渋々承諾したのがきっかけだったのですが、このことが当時全く門司学園に関心のなかった一人の生徒が今日まで門司学園を見守り、そして微力ながら支援を続け、今この寄稿文を書くことに繋がっております。

生徒会に入ってから当時の門司学園の奮闘の日々を間近で感じるようになります。初代生徒会長であり、初代同窓会会長の加藤千尋氏が10周年記念誌で記述していましたが、まさに当時の私たちは『やってみる』の連続でした。何をやるにしてもほとんどのことが初めてのことであり、何が正解かもわからない中で何とか形にしていく日々を過ごしていました。初めての文化祭、初めての生徒総会、部活動や生徒会の生徒が集まって行った年末の大掃除ですら初めてのことだったと記憶しています。そして気が付けば、生徒同士の会話の中で『これはやってみよう。いつか門司学園の伝統になるかもしれない。』と自らの手で学校の歴史を創っているという自負が学校全体で徐々に芽生えるようになっ

ていったのを覚えております。『本校の歴史を創るのは、諸君である』という坂口秀俊先生の教えが、ただの言葉としてではなく、肌に染み込み、本当に歴史を創っていく礎になっていったのを今でも覚えております。

当然私の中でも変化があり、このころには門司学園の歴史と伝統を創り、それを推進する立場としての自覚を持って学校生活を送るようになっていました。『やってみる』は『チャレンジ精神』であり、『本校の歴史を創るのは、諸君である』という教えは『当事者精神』と言い換えることができるでしょう。社会を生き抜く上で非常に大切なことを10代のうちに学ばせていただけたことを今でも感謝しています。また、それを支えてくださったのが、他にもない先生方でした。未熟で幼い私たちに助言を与え、『やらせてみる』という勇氣ある決断をし続けてくださったことに改めて感謝申し上げます。そしてこれまで多くの在校生・卒業生とその親御様方、先生方、そして地域や学校関係者の方々が同じような思いで歴史を紡いできた結果、20周年という節目を迎えることができたことに改めて心より感謝とお慶び申し上げます。

今後30周年、40周年と言わず、末永くその伝統と誇りが磨かれていくことを期待しております。

そして翠巒会としても微力ではございますが、引き続き学校への支援を続けていく所存でございます。現在では、部活動への金銭的支援、奨学金制度などで在校生の皆様の学校生活が豊かになるように、僅かではございますがお力添えさせていただいております。またその他、急を要する決議や支援の際には都度学校と連携を取るなど、陰ながら応援させていただいている状況です。コロナ禍の影響で現在は開催方法を再度見直しておりますが、以前は同窓生同士の交流のために年に一度、同窓会総会と懇親会を行ってまいりました。今後、新しい形で同窓生同士が交流できるように仕組みづくりをまいりますので、会員の皆様、ぜひとも万障繰り合わせの上、ご参加くださいませ。

最後となりますが、今後の門司学園のさらなる発展と、関係者の皆様のご健康をお祈りして、開校20周年のお祝いとさせていただきます。

現職員写真



制服の変遷

中学



旧冬服



旧夏服



新冬服



新夏服

高校



旧冬服



旧夏服



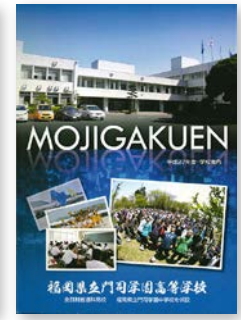
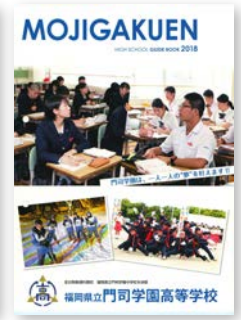
新冬服



新夏服


学校刊行物 [学校案内]

高校



中学





編集後記

福岡県立門司学園中学校・高等学校創立20周年にあたり、記念事業の一環として、『創立20周年記念誌』を制作いたしました。

発刊に際して、資料提供、寄稿など、御協力くださいました同窓会「翠巒会」の方々をはじめ、PTA、歴代校長、旧職員の方々からお礼申し上げます。

創立20周年という節目の年に、本誌の編集に携わらせていただいたことを大変光栄に感じております。本誌の発刊にあたっては、記念誌編集委員会を中心に編集してまいりました。その間、多くの皆様方よりの確な御指導・御助言をいただいたことに、記念誌編集委員一同、心より感謝申し上げます。皆様方のおかげをもちまして、無事、記念誌の編集を終えることができました。

本誌の掲載内容については、創立10周年時に発刊した『創立10周年記念誌』を参考にしながら、創立当初の本校の歴史に思いを馳せながら、第1期生から第20期生までの本校への思いを凝縮することを編集目標に掲げ、本年度までに活躍した生徒たちが生き生きと活動する様子を中心に掲載いたしました。編集委員会では議論を重ねてまいりましたが、門司学園中学校・高等学校に対する皆様方のその思いを十分に表現することができているかどうか心配な面はございますが、創立当初から現在に至るまで本校の教育活動に関わったすべての方々に、本校に対する気持ちをさらに強く抱いていただくきっかけとなるものと確信しております。本校は創立20周年の記念の年を迎えたことで、次の10年のステージに進んでまいります。今後もさらに飛躍を遂げる福岡県立門司学園中学校・高等学校となるように祈念し、編集後記といたします。

記念誌編集委員一同

創立20周年記念誌

令和6年2月26日 発行

発行／福岡県立門司学園中学校・高等学校

〒800-0102 福岡県北九州市門司区大字猿喰1462-2

中学校 TEL：093-481-4673 FAX：093-481-5768

高等学校 TEL：093-483-1755 FAX：093-483-2005

URL <https://mojigakuen.fku.ed.jp/>

印刷／小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分市松原町2丁目1-6 TEL097-558-3444 FAX097-552-2301

※掲載されている各種資料・写真は、デジタル化され当社内に保存しています。



MOJI
GAKUEN
Junior & Senior High School